

旅行者行動支援におけるGISの応用可能性

Potential Applications of GIS for Tourist Activity Support

1000008

倉田 陽平 (首都大学東京)

Yohei KURATA (Tokyo Metropolitan University)

キーワード：発地型・着地型観光情報、クチコミ情報、旅行計画支援

Keywords: onsite & offsite tourist information, word-of-mouth information, tour planning support

観光立国推進基本法の施行(2007年)と観光庁発足(2008年)を受け、現在、日本では観光立国に向け、訪日観光客の誘致など様々な取り組みが行われている。急増する外国人旅行者の中には、サブカルチャー観光、100円ショップでの買物、B級グルメ巡り、人間ドック来訪など、従来の日本観光のイメージからは想像もつかない観光行動を取る者も生じはじめている。このように多様化する旅行者に対し、いかに情報サポートを行い、日本を「旅行しやすく、かつ奥の深い国」と印象づけていくかは、インバウンド市場の拡大を一過性に終わらせないためにも重要な課題である。そこで本稿では観光情報サービスのあり方と、そこにおけるGISの応用可能性について考察したい。

観光情報には大きく分けて、人々を旅行へと駆り立てる発地型情報と、旅先で消費される着地型情報との二つに分類される。観光情報サービスを設計する際にはこれらの役割分担を意識しておくことが肝要である。従来、観光情報サービスといえば、携帯端末を介して豊富な情報を提供することに過度の注目が置かれていた。このため、現地の案内板の内容と同じものを端末画面上で表示したり、出発前に利用されるべき発地型情報までをごちゃまぜに提供したりするような事態も生じていた。本来、携帯端末に求められる情報は、鮮度の高い着地型情報である。また、操作性の悪さや現地での操作余裕を考えると、情報の段階的構成、ならびに利用者の特性や嗜好を考慮した情報の絞込みも重要な課題となってくる。

クチコミ観光情報は新鮮さと多様性の点できわめて有用度の高い情報である。そこには観光地サイドが気づかなかった隠れた見所の情報や、あまり出したいくないが旅行者のリスク回避には有用な悪評情報も含まれる。カキコまっぷ(真鍋ほか 2003)のようなオンライン地図掲示板は、クチコミ観光情報を空間的に整理していく上で有用なツールである。また、セカイカメラ(Tonchidot 2008)のようなクチコミ情報を現実映像に重ねて見せる拡張現実型システムは、即地性・即時性があり、利用者の地図リテラシーを問わないという利点がある。ただし、情報提供場所に行かなければ情報を享受できないという拘束性や、いかに有用な情報を選択的に示せば良いのかという課題もある。とはいえセカイカメラに見られる拡張現実技術が今後発展すると、画面を介して古い町並みや破壊前の遺跡を現

実空間に重ねて表示させたり、いまある街をミュージアムやゲームフィールドに見立てたりと、既存の空間を保全・活用しながら観光コンテンツの充実を実現することにつながる。この中でGISは現実世界と現実世界にマッピングされたコンテンツとを結びつけるバックボーンとして大きな役割を果たしていくことだろう。

以上は着地型情報の話であるが、人々を旅へといざない観光振興をはかるためには、発地型情報の充実も重要課題である。従来の発地型情報は、テレビの旅番組・CMや、パッケージツアーのカタログなどにより、不特定多数の人々の旅行動機を刺激することに主眼が置かれてきた。これに対し筆者は、個々の利用者がオーダーメイドの観光プランを対話的に作成できる、GISベースの「旅行計画支援システム」の開発に取り組んできた(Kurata 2010)。このようなシステムは旅先に着いてからプランを練るような着地型利用も可能だが、むしろ出発前に気軽に利用してもらい、「もし自分がその地を訪れたらどんな旅行ができるか?」というイメージをふくらませ、旅行手配のステップへと踏み出させるきっかけを与える役割も期待できる。

最後に、観光現象の分析におけるGISの応用可能性も忘れてはならない。なぜならそのような分析をもとに、旅行者への情報提供のあり方や、マーケティングのあり方を議論していくことができるためである。特にGPSロガーを利用した分析(たとえば矢部ほか 2010)は、旅行者の行動実態をミクروسケールかつリアルタイムに把握することができるので、その利点を活かした研究成果が今後、大いに期待される場所である。

文 献

- 真鍋陸太郎・小泉秀樹・大方潤一郎 2003. インターネット書込地図型情報交流システム「カキコまっぷ」の課題と展開可能性. 都市計画論文集 38(3): 235-240.
- 矢部直人・有馬貴之・岡村祐・角野貴信 2010. GPSを用いた観光行動調査の課題と分析手法の検討. 観光科学研究 3: 17-30.
- Tonchidot 2008. Presentation at *TechCrunch50*.
- Kurata, Y. 2010. Interactive Assistance for Tour Planning. *Spatial Cognition VII, Lecture Notes in Artificial Intelligence 6222* (in press).